

旧榎本米穀店（蔵まえギャラリー）

このコーナーではスクランブル調査隊メンバーが関わったり、探訪した、神奈川県内の歴史的な建物やまちなみを紹介します。

JR 藤沢駅北口から5分ほどのところにある蔵まえギャラリーは、昭和6年頃に建てられた旧榎本米穀店の店舗兼住宅と内蔵を活用して運営されています。人間でいえば今年、米寿を迎えます。

藤沢は古い歴史を持ち、中世には遊行寺の門前町として、近世には宿場町として栄えましたが、明治5年の宿駅制廃止と明治20年の鉄道の開通により相模一帯の農業と結びついて肥料商や米穀の集荷商が集まる県央一の商業地に変化しました。

明治13年の大火をきっかけに、土蔵造りの店舗(店蔵)や袖蔵など防火対策が進みましたが、大正12年の関東大震災で大きな被害を受け、現存する町家のほとんどは震災後のものです。

旧東海道から分岐して江の島へ向かう道(江の島道)沿いに旧榎本米穀店があります。この辺りは蔵前という地名が残っており、近くの境川の舟運で米穀の集荷が盛んだったことが窺えます。震災後の建物であることから、屋根は銅板葺きで軽くし、防火上の観点から店舗の両袖に米蔵と内蔵を配しています。



外観：左から米蔵、店舗、内蔵

内蔵は伝統的な土蔵造りではなく、鉄筋コンクリート造の基礎に土台を回し、木造の軸組に木摺下地(斜め張り)、防水紙にラスモルタルという近代的工法を採用しています。

一方主屋は木舞下地の土壁塗りの伝統的な造りながら、小屋組にはトラスが使われ、壁には大筋違が見

られるなど、震災の教訓が活かされています。4間半間口、出桁造りの2階に1階は下屋庇を設けて店舗入り口は8枚の硝子戸で、開放的になっています。広い土間に帳場、金庫、神棚と商家の要素が全てそろっており、大黒柱等主要な部材は全てケヤキを用い、江戸以来の伝統的な商家の姿を受け継いでいます。住居部分は10畳と8畳の二間続きの座敷に床の間、書院を備え、猫間障子や千本格子の障子が目を惹きます。欄間の自然木、便所や風呂場の天井など、さりげなく手が込んでおり、目を楽しませてくれます。2階は来客用の和室でしたが、増築と改修がされて洋室と台所になっています。

米蔵には山一(やまいち)の屋号が見え、入口は石造アーチになっているのが見どころで、現在は車庫として使われています。蔵の外壁はどちらも左官仕上げで目地切りをして石積み風になっています。



8畳の座敷



帳場の神棚と金庫



概要 便所と浴室の天井は必見です

名称：旧榎本米穀店

所在地：藤沢市藤沢 630-1

建設年：昭和6年(1931)頃(主屋、外蔵、内蔵共)

(東海大学小沢研究室の調査による)

施工：不明

構造：木造2階建て(主屋)、蔵造り(外蔵、内蔵)

屋根：銅板瓦棒葺一部小波鉄板葺(主屋)

小波鉄板葺(外蔵、内蔵)

外壁：土壁及び金属板(主屋)、

左官仕上げ目地切(外蔵、内蔵)

(スクランブル調査隊 佐藤 里紗)

特集：第60回建築士会全国大会「京都大会」

第60回建築士会全国大会「京都大会」は、平成29年12月8日（金）、京都市勧業館「みやこめっせ」で約3,800名の建築士が参加して行われました。テーマは「山とまちと木造建築」で、前日からのプログラムに続き、当日は5つのセッションとヘリテージマネージャー大会が午前中に行われ、午後は記念フォーラム、大会式典と続き、閉会後は大交流会で全国から集まった建築士が交流しました。翌日は地域交流見学会（エクスカージョン）もあり、神奈川士会からは会長、表彰者を含め56名の会員が参加しました。（編集部から）

全国大会参加記

中支部 矢野 高

考えてみれば私が本会会員になり25年余、支部の幹事や本会の委員会の委員となり15年の月日が経ちますが、全国大会への参加はありませんでした。そんな折、今期より中支部長を拝命し、支部からも表彰者が出るということで、初めての全国大会参加となった次第です。

【会場入り前にちょっと建物探訪】

夜行バスにて地元を出発、午前5時10分京都駅着。開場までの朝のうちに、以前ネットなどで見て訪れてみたいと思っていた京阪電鉄宇治駅舎（設計：若林広幸・1995年）を見に行くことにしました。

JR奈良線の始発に乗り黄檗駅で京阪線に乗換え現地到着。円形や半円のデザインをあちらこちらに散りばめ、美しい仕上げのコンクリート打ち放しの通路がホームから駅前広場に通じ、広場に出ると平等院を現代風にアレンジしたという駅舎建築のファサードを目にすることができました。



駅前広場は宇治川に面し日本三古橋の一つである宇治橋が架かります。天候がいま一つで、秀吉の茶の湯の汲み場であったといわれる三の間から上流側の眺めも今一つであったことが悔やまれます。

【いざ、会場へ！】

何度見てもその偉容に圧倒される原広司設計の京都駅へ戻り朝食。その駅コンコースにおいてはすでに京都士会の皆さんが多数駅立ちをし、案内役を務めておられます。軽くご挨拶し、地下鉄でいよいよ会場「み

やこめっせ」へ向かいます。車内の会話のトーンが関東のそれと明らかに違い、京の地に足を踏み入れたことを改めて実感しつつ会場入り。北海道から沖縄まで、同じ名札を下げた建築士の皆様でごった返しております。

さっそく交流セッションへ。ヘリテージマネージャー大会を選択していたのでそちらにて講演を拝聴。後藤治氏の司会のもと近畿各県における取り組みの事例や熊本地震での文化財の被災状況の調査について紹介。事例報告では「廃墟マニア」を囲い込んだ兵庫県の実例が目を引きました。古民家などに限らず彼らを惹きつける「廃工場」や「廃村」なども、やがてはHMの守備範囲になるのでしょうか。

私も地元で登録有形文化財（秦野市蓑毛の大日堂）の保全活動に携わっていますが、今回聞き得た事例が何らかの形でヒントになれば参加した意義も大きくなるのではないかと思います。

【式典と懇親会】

式典におきまして、当支部の齋藤清氏が連合会会長表彰を受けられました。齋藤さんには私が中支部役員になった頃よりご指導をいただき、現在も支部長となった私に適切な助言を下さる頼もしい存在です。今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

懇親会で楽しく食事とお酒をいただいた後、中座。京都タワーの地下にある大浴場で疲れを取り日付が変わる1時間ほど前には京をあとに。まさに弾丸ツアーでしたが、これが私にとって初参加の全国大会となりました。次回はさいたま市での開催とのこと。また機会を作り参加したいものです。



大交流会のようす

第5回全国ヘリテージマネージャー大会 歴史的建築物の活用による地域創生

横浜支部 武宮 秀教

建築士会京都大会各セッションに追加する形で開かれました。会議では4件の取り組み事例が報告され、国を含めた今後の動向、課題について提起されました。

■事例報告 1

京都の北部、丸山集落の再生に端を発し兵庫県の北部に活動を広げられている「一般社団法人ノオト(NOTE)」の金野幸雄氏からの報告です。始まりは総戸数12戸中7戸が空き家だったという限界集落再生、古民家再生でした。3戸の空き家を対象に所有者との半年にわたるワークショップを経て宿泊施設利用が実現しました。これは当初の景観地区指定や景観形成基準作りの候補地選びという目論見を超えるものでした。一般社団法人は貸したい人と借りたい人とのマッチングをする。空き家を宿泊や飲食ができる施設に再生されると、これを契機に各種の工房、オーガニック野菜、レストランなど再生・活用が誘発されます。一泊による再生から一生へ。集落には空き家はなくなりました。何よりの指標として耕作放棄地が無くなったことを挙げられました。今では京都境を越え兵庫県篠山城下町を始めとする北部に活動を広げているとのこと。



2009年10月古民家の宿「集落丸山」開業

■事例報告 2

H17の講座開始以来、約400名の講座修了生を擁する京都のヘリテージ活動について KOMO (古材文化の会) の桐浴邦夫氏が報告されました。熊本応援を含めた日常の学習、スキルアップに取り組まれていること、とりわけ京都市との「京都を彩る建物や庭園」の認定調査(選定物件324件、認定建物90件)を成果として紹介されました。

<http://kyoto-irodoru.com/index.html>

KOMOのメンバーは今回の京都大会エクスカージョン各コースの案内に大活躍をされました。

■事例報告 3

H22年度以降、102名の講習修了者を擁する奈良県では建築士会内に「奈良ヘリテージ支援センター」が設けられました。その経緯、活動について同センター世話人の高安秀和氏が説明されました。特筆すべきは地方銀行「南都銀行」と建築士会で協定を締結「歴史的建造物活用と地域銀行融資」という保存活用の有効手段を作りだしたことでしょう。融資対象物件には「支援センター」が発行する意見書の提出、「奈良町家バンク」に登録されていることが要件とされています。ヘリテージ業務が経済的なインセンティブに位置づけられました。その他、登録文化財建造物調査、スキルアップとして講習会の実施 H26、27年度(参加者約30名、5回、30時間 兵庫県篠山市訪問も含む。)、育成講習会の実施(H29年度)などに取り組まれています。

■事例報告 4

最も実績があり、端緒を切り、現在、約400名の修了者を有している兵庫県からは人材育成の新展開と題して「ひょうごヘリテージ機構」の沢田伸氏が話されました。当初は建築士会主導の人材養成でしたが2015以降はNPO法人「ひょうごヘリテージ機構 H2O 神戸」により実施されています。経営の黒字化を担うためには建築士に限らず「ヘリテージコーディネーター」、「同サポーター」としての多様な人材養成が必要だと強調されました。



前日に旧日銀京都支店で開かれた「ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」でも熊本支援と現状が報告され、有事協力のためには府県単位のヘリテージ養成からブロック単位の共有も叫ばれました。

内閣府でも「歴史的資源を生かした観光まちづくり」を全国200地区で展開しようと建築基準法も旅館業法も改正が検討されています。「文化を観光に売り渡す」という批判を受けることなくヘリテージの保全活用を図るべきと認識を新たにさせられました。

女性委員会+福祉・防災まちづくり部会 コミュニティア型仮設住宅地を考える

横浜支部 雨森 隆子

セッションの初めは、女性委員会、福祉・防災まちづくり部会の活動報告と今後の展開提案でした。その後のパネルディスカッションは、活動をもとに、テーマについて協議されました。

女性委員会からは、第27回全国女性建築士連絡協議会、「魅力ある和の空間」ガイドブック製作、福祉避難所、周産期福祉施設について、さらに、事例からその運営及び課題が報告されました。

防災まちづくり部会からは、平常時より、建築士・建築士会が地域や行政と「普段付き合い」が必要であること。「復興等支援に係る建築士会の事前活動方針」、「木造応急仮設住宅供給に係る建築士会等連絡協議会」の中間報告がありました。

福祉まちづくり部会は、平成29年に発足。目的・目標、目指す方向、行動計画について、また、47地域リーダーへのアンケートがされ、各地域の状況を把握中と言う事。2016年より内閣官房主催「ユニバーサルデザイン2020 関係府省等連絡協議会への参加と2020オリンピック・パラリンピックへ向けた今後の活動と「福祉まちネットワーク」の構築と協力要請。さらに、東京建築士会会員の事例「十津川村の新たな集落づくりに繋がる復興の取り組み」の報告がありました。委員会、部会の盛りだくさんな報告からのパネル

ディスカッションは、テーマに繋がらなかった。災害時に、地域の建築士、単位建築士会が、地域で何をすべきか、「事前の備え」の指針がほしかったと思いました。



青年委員会セッション 地域実践活動報告発表会

県央支部 伊藤 誠一

青年委員会セッションは全国47単位士会の地域実践活動の中から、各ブロックの青年建築士が推薦した活動事例の発表を行います。

富山県「小さな家づくり」、宮崎県「景観教室」、北海道「建築士と楽しく学んで防災博士になろう」、京都府「ヤマケン木のテントプロジェクト」、長野県「風穴のある場所の価値」、青森県「建築体験ウォッチ職業体操で建築を学ぼう」、鳥取県「鳥取市におけるリノベーションまちづくりの実践」が推薦され、活動事例の報告が行われました。

各ブロックの活動を全国の仲間達と共有し、活動のさらなる発展、自己研鑽、理解をして自県に持ち帰ることを目的としている為、多くの青年建築士で会場は埋め尽くされ、自県にどのように持ち帰ることができるかを模索しているようでした。また、青年セッションでは参加者全員で優秀な活動に投票し、最優秀賞、優秀賞の表彰を行います。今年は何と、関東甲信越ブロック代表、神奈川箱根大会で推薦された長野県の「風穴のある場所の価値」が優秀賞を獲得することができました。



最優秀賞を獲得した長野県では青年女性委員会を中心となり、地域住民と共に次世代へつなげていける活動を行っていて、風穴を活用した商品開発や街歩きツアー企画などアイデアを出し合い地域と共に建築士会が存在していける環境づくりをしていることを感じる事ができ、全国の発表を聞き自県に何を持ち帰らなければいけないか、言うことが見えた気がしました。



環境部会セッション

各地の気候風土型認定住宅認定指針策定に向けた
単位建築士会の取り組み 湘南支部 岩倉 朗子

「気候風土型認定住宅」について興味を持ちつつも、今まで情報も知識も得てこなかったため、概要を知る良い機会かと思い、セッションに参加してきました。

前半は認定指針とガイドラインの説明に始まり、熊本土会からの報告・東京で土壁の家を多く設計されている方のお話・京都の専門学校教員の方の生徒や子どもとの取組みの報告があり、後半は前半発表者の方々によるパネルディスカッション。また、長野・山梨・埼玉・愛知の取組みについての発表もあり、質疑応答の際にも、その他勉強会を始めている県として、沖縄・岡山・徳島の方からも報告があり、時間を大幅にオーバーする白熱した発表が続きました。

同じ県内でも沿岸部と山間部で全く気候が違う県もあり、ましてや日本全国で見れば、北と南で大きな差があるのに、現在の基準はどうしても中央よりになっていることに疑問を感じているという方もいて、これを機会によりその土地の気候風土にふさわしい住宅を造りたいという思いが熱く感じられる発言ばかりでした。

翻って神奈川県ではどうなのか、勉強会が始まっていることは聞いていましたが、不勉強で何も把握できていません。雪国や南国のように特徴的な気候でない分、神奈川県らしい住まいというのがどういうものの定義づけが難しいように思いますが、いたずらに機械的・化学的なものに頼る快適さに走らず、自然を活かした心地よい住まいをスタンダードにしていくためにも、今後の動向に注目しつつ、学んで行きたいと思いました。



エクスカーション

呉服の商家と京料理

川崎支部 関口 佐代子

「呉服の商家と京料理」のエクスカーションに参加しました。京都生活工芸館「無名舎」では御当主の、自然と共にある暮らしのお話を聞きました。「きびしい寒さを感じるから工夫しようとする」というお言葉が心に残っています。土間の「はしりもと」と呼ばれる所に炊事場があり、火袋という吹抜けは火が出た時のためという事でした。12月でも寒さが身に染みましたが、京都の人々の、長い歴史を大事にしている生活が強く印象に残りました。



無名舎にて



町屋えほん

釜座町町家は、町内会の集まりに使われる町家で「ちょういえ」と呼ばれるそうです。ここでは、京町家再生の活動をされている京町家作事組の具体的な事例に触れることができました。また、子ども向けの絵本も紹介して頂きました。とてもわかりやすい内容で気に入って、早速購入しました。

昼食は京料理のお弁当を「ちおん舎」で頂きました。元呉服商の邸宅で、座敷棟では西陣帯の展示会が開催され、お茶室では茶会が催されていました。ここでも歴史的な建物が生活の身近にある京都の姿を味わうことができました。



ちおん舎にて

エクスカーション

千利休が愛した北山杉とお寺で癒し体験

横浜支部 稲村 和美

茶室や数寄屋建築には欠かせない北山杉。北山丸太と生産地中川地区(小説「古都」ゆかりの地)の散策・磨き丸太体験がこのツアーの目玉でした。

真っ直ぐ伸びた北山杉をバスの車窓から眺め到着したのは、「京都北山杉の里総合センター」。見事に磨かれた北山丸太が木の香りと共に出迎えてくれます。そして熟練の技「枝打ち」を間近で見学。北山杉の特徴は細く真っ直ぐで年輪が密、強度が強いことですが、これらは念入りに手入れされた枝打ちの技術によるものなのです。(写真は5m超のハシゴを登り、枝打ちされる様子)



また、丸太を乾燥させる為に建てられた「木造倉庫群」は、昭和初期の建築で独特の外観。丸太の表面を砂で磨き仕上げる「磨き丸太」も体験しました。こうして手間をかけ丹精込めた磨き丸太を出荷する時は「嫁に出す」と表現するそうです。

北山杉の他にも、見所や体験が盛りだくさんで、「日蓮宗総本山 立本寺塔頭 具足山教法院」では、住職の手ほどきによる写仏体験を、「御室派仁和寺 別格本山 五智山蓮華寺」では、地域の子供太鼓隊による本格的な御室太鼓の演奏を聴かせてもらい、「世界遺産 仁和寺」では美しい庭と建物を堪能し、旅の締めくくりには北山の里名物の草もちをごちそうになり、大満足の日となりました。



エクスカーション

「海の京都」丹後の魅力を満喫する二日間

小田原地方支部 芝 京子

2017年建築士6月号に、上記御案内がされた。地域交流見学会(エクスカーション)18種類のコースの中から、1度行ってみたいだったBコース「海の京都・丹後の魅力を満喫する2日間」に申し込みをした。

大会翌日、日本海に面する丹後に向かう途中、車窓から雪のお出迎えを受け、宮津へ到着した。

この城下町は、西北に漁師町、西南部に寺町に問屋街等、江戸時代の都市計画を受け継いでいる。宮津市教育委員会担当者の丁寧な説明を受けながら、教会、公民館、医院 洋風建築の街並みを散策し、古に思いをはせた。重要伝統的建造物群の保存地区である、与謝野町、ちりめん街道の街並み、京都府指定文化財の住宅・診療所、ちりめん工場や銀行を教育委員会担当者の説明を受けながら散策していると、ガシヤ、ガシヤ、機織り機の音が!

重要文化的景観地域の日本三景天橋立を散策し、宿へ。翌日は日本のベネチアとも称される海の京都 伊根 その歴史は古事記にまで遡り、数々の伝記が残る地域だとの事。7地区の舟屋郡街並み。海水際ギリギリに切妻面を海に向けた、2階建て建物が3辺を取り囲んでいる、伊根湾の入口中央に青島が位置する事で、波が穏やかでその他自然条件が舟屋の構築に役立っているという事である。

散策の途中、数件の舟屋に鍍絵を発見した。個人的に大変興味を持っているので、また違った魅力を得た。保存状況も素晴らしく、当時の栄華が偲ばれる。宮津・伊根の海産物、与謝野の反物いずれも都・京都への文化の流通の源であり、日本の原風景を保ちながら、地域活性に寄与している事に心からエールを送り、京都建築士会の皆様への感謝の言葉で締めさせていただきます。



波穏やかな伊根湾



舟屋



見事な鍍絵

連合会長表彰

本大会で3名が表彰されました。

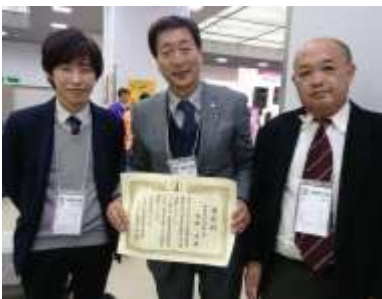
- 雨森 隆子 氏 (横浜支部)
- 齋藤 清 氏 (中支部)
- 宮田 信夫 氏 (横浜支部)



雨森氏コメント

この度は、光栄な賞を頂き、大変うれしく思っております。たくさんの方から温かいお祝いのお言葉頂きまして、ありがとうございました。

建築士会に入会して、早20数年が過ぎました。子育てをしながらの仕事復帰を決意し、建築士会の女性委員会へ。同じ悩みを抱える女性建築士はじめ、多くの皆様に支えられ、楽しく活動続ける事ができました。これからは、少しでも、若い方の支えになれるよう努めて参ります。



齋藤氏コメント

日本に建築士が誕生した昭和27年に私は産まれました。建築士としての私が生まれたのは昭和50年と53年。気が付けば建築士事務所を開業して39年の月日が経っていました。若さゆえの情熱・ご指導いただいた先輩方の優しさ・中支部の皆さんと悩み共に歩んだ日々。記念すべき60回全国大会「京都大会」3800人も建築士の集い。その晴れの会場で会長表彰を受けられる席にいる。なんとも恵まれた感無量のひと時でした。自分よりここに居るべきは中支部ご意見番の亡き土井さんではないか、建築業会を取り巻く環境への取り組み、建築士のあるべき役割・向上心、皆で酒を酌み交わし熱く語りあった日々が昨日のことに思い浮かびました。壇上では、番匠保存会による「新始め」の儀式、数々の祝辞、記念写真、懇親会場で神奈川会の皆様から頂いた祝福の声が心に焼きついています。これからの建築士人生を中支部の仲間と共に建築への探究心と情熱を持ち続け歩んで行きたいと確信しました。

大会終了後は、ライトアップされた嵐山や東寺の絶景、京都駅のスカイウォークから見るイルミネーションの豪華さ、清水寺から高台寺・八坂神社・祇園・錦市場までの観光散策、伏見稻荷・東福寺、大政奉還150年記念の二条城へ、2泊3日で妻と古都を歩いた距離は7万歩以上でした。このようなご褒美を与えていただいたのは、会長賞に推薦・後押ししてくれた皆さんのおかげです。ありがとうございました。



連合会長表彰記念品



全体集合写真

神奈川建築コンクールは、神奈川県建築文化・建築技術の向上を図り、魅力あるまちづくりを推進するため、県及び12市（建築確認・開発許可を行っている行政庁）が主催しています。県内で過去2年間に完成した建築物が対象で、優れた建築物の建築主・設計者・施工者を表彰します。神奈川県建築士会もこのコンクールの協賛者団体として協力をしています。

平成29年度は応募総数76件（住宅部門38件、一般建築物部門38件）の中から、住宅部門では最優秀賞1件、優秀賞8作品、アピール賞1作品、一般建築物部門では、最優秀賞1件、優秀賞9件が選ばれました。その中で、協賛者賞「神奈川県建築士会賞」を受賞した会員のみなさんの受賞作品をご紹介します。

住宅部門 「大磯の家」



施工者：

菊嶋 秀生さん

(株) キクシマ



所在地 ● 大磯町 建築主 ● 個人のため非公表

設計者 ● 河野泰治アトリエ

施工者 ● (株) キクシマ

■用途：専用住宅 ■敷地面積：360.05㎡

■延べ面積：149.27㎡ 構造・階数：木造 地上2階

美しい緑の山を背負ったこの住宅は、高齢の家族3人の住まいです。中央に配置された部屋が互いのプライバシーを保ちながらも、気配は感じられる空間構成になっています。内部に入ると、建築主様と設計者様のこだわりの仕上げ・納まり等、昨今の住宅にはない趣を感じます。縁側に座り、庭のコスモスを眺めるご家族の、これからの穏やかな生活の場を作れた事が、づくり手として何よりの喜びです。

住宅部門

「大倉山シニアハウス+」



施工者：

菊嶋 秀生さん

(株) キクシマ



所在地 ● 横浜市港北区 建築主 ● 個人のため非公表

設計者 ● (株) スタジオ・アルテック

施工者 ● (株) キクシマ

■用途：共同住宅・児童福祉施設・集会所

■敷地面積：1722.84㎡ ■延べ面積：1308.58㎡

■構造・階数：RC造/地上3階

「エンガワ計画」と呼ばれた中庭を介してウッドデッキ回廊の軒下に縁側を設け、各住戸を繋ぐ空間を建築主様、設計者様と共に打合せを重ね構築してきました。

地域活動施設も併設され、畑や、季節を感じられる中庭、またどこか懐かしい縁側を通じて入居者同士のみならず施設利用者や地域住民との交流が持てる場となっています。

このような施設を作れたことは、づくり手として大きな喜びです。

住宅部門 「鎌倉腰越の家」



設計者：

田井 勝馬さん

(株) 田井勝馬建築設計工房

所在地 ● 鎌倉市 建築主 ● 個人のため非公表
 設計者 ● (株) 田井勝馬建築設計工房
 施工者 ● (株) 栄港建設 ■用 途：専用住宅
 ■敷地面積：297.65 m² ■延べ面積：92.97 m²
 ■構造・階数：木造 地上 2 階



計画地は、鎌倉山と相模湾を一望できる特徴的なロケーションに位置しています。地形の段差をスキップ的に内部空間に取り込み、一枚屋根で包む大きなワンルーム空間を構成しました。この一繋がり空間には、段差や階段、カウンターやテラスなどの様々なエレメントが緩やかに「場」を創り出し、どこにいても家族の気配を感じる「おおらか」で「包容力」のある住宅となっています。

一般建築物部門

「特別養護老人ホーム 笹の風」

設計者：

山田 泰範さん

(株) 山田構造設計事務所一級建築士事務所



所在地 ● 横浜市 港南区 建築主 ● 社会福祉法人 寿楽園
 設計者 ● 一級建築士事務所健康設計、(有)角倉剛建築設計事務所、
 (株) 山田構造設計事務所 施工者 ● 馬淵建設 (株)
 ■用 途：特別養護老人ホーム ■敷地面積：10,894.46 m²
 ■延べ面積：7,982.13 m² ■構造・階数：RC造 地上 4 階・地下 1 階

一般建築物部門

「児童発達支援センター 青い鳥」



設計者：

裏木 隆さん

(株) 日比野設計

所在地 ● 相模原市 中央区 建築主 ● 社会福祉法人 相模福祉村
 設計者 ● (株) 日比野設計 施工者 ● (株) 櫻内工務店
 ■用 途：児童発達支援センター ■敷地面積：3,799.76 m²
 ■延べ面積：1,586.20 m² ■構造・階数：S造 地上 2 階



一般の保育園や幼稚園に通う事が出来ない発達障がいを持った子ども達は、一般的に自由な体験や様々な方とのコミュニケーションが取りにくい環境にあり、社会への適応能力が低くなりがちです。子ども達が将来、少しでも社会に適応する能力を向上させるために、「五感」を育む場を創造しました。様々な体験をとおして自身の得意な事を発見したり考えたりする事で好奇心・探求心を引出し成長するきっかけになっています。

住宅部門

「東門前の二世帯住宅」



設計者：

納谷 新さん

納谷建築設計事務所



所在地 ● 川崎市 川崎区
 建築主 ● 個人のため非公表
 設計者 ● 納谷建築設計事務所
 施工者 ● 石和建设(株)

■用途：専用住宅 ■敷地面積：112.85 m²
 ■延べ面積：153.25 m² ■構造・階数：木造・RC造 地上3階

既存住宅で暮らしていた父、新たに娘夫婦と子供、さらに3匹の犬が加わり、共に暮らすための二世帯住宅です。3方を住宅に囲まれた敷地の中に、心地の良い居場所を探し、単純に必要な場だけで構成しました。キャラクターの異なる平面が3層に積み重なった様は、環境に合わせて進化する生物のように、敷地と住人に合わせた本当の形に作り上げることができたと考えています。

一般建築物部門 「障害者施設「恵和青年寮」及び「恵和館」



設計者：

稲毛 恒男さん

(株) 金子設計



所在地 ● 横浜市 保土ヶ谷区
 建築主 ● 社会福祉法人 恵和
 設計者 ● (株) 金子設計 施工者 ● (株) 小俣組
 ■用途：障害者支援施設 ■敷地面積：12,828.36 m²
 ■延べ面積：新・東の家 2,481.77 m²・新・恵和館 721.32 m²
 ■構造・階数：RC造 新・東の家地上3階・新・恵和館地上2階

プロポーザルの段階から“恵まれた自然環境を活かした「居心地の良い住まい」をみんなでつくる”をコンセプトに、建物と地形を活かした障害者施設の再整備です。職員や利用者との密な聞き取りから「施設の将来像」「活動の場・居場所づくりへの具体的な要望」を汲み取り、反映させながら一緒に計画を進め、中心の広場をとりかこむように建物を配置して『居心地の良い住まい』の計画に努めました。

他の入賞作品や神奈川建築コンクールの詳細については、神奈川県ホームページに掲載されております。作品募集のお知らせも掲載されますので、次回は応募をしてみよう！と思われる方、ぜひご覧になってみてください。

◆神奈川建築コンクールホームページ◆

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0721/kanagawa-architecture-concours/>

総務企画委員会

平成 30 年賀詞交歓会

嬉しいサプライズ

長田 喜樹

平成 30 年 1 月 18 日(木)、ご来賓・賛助会員・会員合計約 130 名の皆様のご参加を得、横浜ナビオスを会場に盛大に開かれました。会員が一堂に会する大切なイベント、事務局まかせではまずいということで、総務企画委員会では 2 年前からその運営に全面的に協力しています。

来賓の皆様からご祝辞を頂戴したのち、歓談に移りましたが、今回も随所で参加された会員に登壇していただくイベントが盛り込まれました。最初は、新たに長寿会員となった会員の皆様への感謝状贈呈。70 歳を超え建築士会に 20 年以上在籍されている会員が対象ですが、今回は該当者 41 名中 11 名が参加されました。金子会長から長年の貢献に対する感謝状とともに、記念品をお渡しいたしました。感謝状と記念品は欠席された会員にも後日お送りいたしました。丁寧なお礼状をいただき事務局も大感激です。

続くイベントは、新入会員の紹介。昨年 12 月の合格発表で建築士となり、さっそく入会いただいた 3 名の会員に抱負を語っていただきました。さらに、3 年前から実施している合格者向の期間限定「お試し会員」に登録され、体験のために今回の賀詞交歓会に参加されたお二方も登壇しましたが、ご挨拶の場で士会への入会を宣言していただくという、まさかの展開に金子会長大喜び。

賛助会員様からも力強いご挨拶を頂戴し、驚きと元気をいただいた賀詞交歓会となりました。



情報広報委員会

会員名簿を更新します

山口 義弘

情報広報委員会では、「4 年に一度発行する会員名簿」を発行するための準備を行っています。

次に発行する会員名簿には、下記の 2 項目を追加します。

●「応急危険度判定士」の項目を追加

応急危険度判定士とは、大規模災害発生である大地震や余震により被災した建築物を調べ、その後に発生するさらなる余震などによる倒壊の危険性、外壁、看板や窓ガラスなどの落下、付属設備・機器の転倒・落下などの応急危険度判定を行うことのできる資格を持った人のことです。

●「自己PR」の項目を追加

建築士会会員相互の親睦を図る目的として設けることとしました。掲載できる内容は「学歴」「出身地」「趣味」「特技」の 4 項目とします。また、掲載文字数は「12 文字以内」（撥音、記号なども 1 文字とする）とします。ただし、指定の 4 項目ではないと思われる記載があった場合は情報広報委員会が判断を行い、今回の会員名簿の自己PRの欄は「空欄」で対応します。

~~~~~

3 月初旬に、皆様のお手元に「平成 30 年度の会員費請求」が届くと思います。そこに皆様の会員名簿に掲載する情報が入っています。上記の追加する 2 項目を含め、追加・訂正や掲載したくない情報がある場合には、別添の「返信用紙」に記載の上、平成 30 年 3 月 31 日（土）までに事務局に返信（FAX、郵送または e-mail）して頂くようお願いいたします。

上記期限までに返信が無ければ、追加・訂正事項無しとして手続きをします。

今後の予定は、4～5 月で編集を行い、6 月に会員名簿を作成します。7 月頃に、年会費を完納された方には、無償で CD 版を配布します。

また、冊子版も作成します。8 月頃になりますが、希望者には有償（1,000 円）で配布します。

女性委員会・防災委員会 中支部共催  
「地域防災」について考えよう  
第5回コラボセミナー IN 平塚

中支部 田中 敦史

女性委員会・防災委員会主催のセミナー『地域防災について考えよう』が1月13日（土）に中支部・ナナメ塾との共催で平塚にて開催されました。

講演1の平塚市災害対策課 榎氏による『地域の防災活動』講演で避難所の役割や災害時の行動、それらの訓練等について伺いました。講演を聞くにつれ、防災について日頃からもっと深い認識が必要である事を痛感しました。いままで漠然と『防災』と言う言葉を捉えていましたが、災害直後から段階的に必要な行動が違ったり、考え方に様々な誤解がある等、大変興味深い内容でした。

次の第2部では『被災地における視点』と言うテ



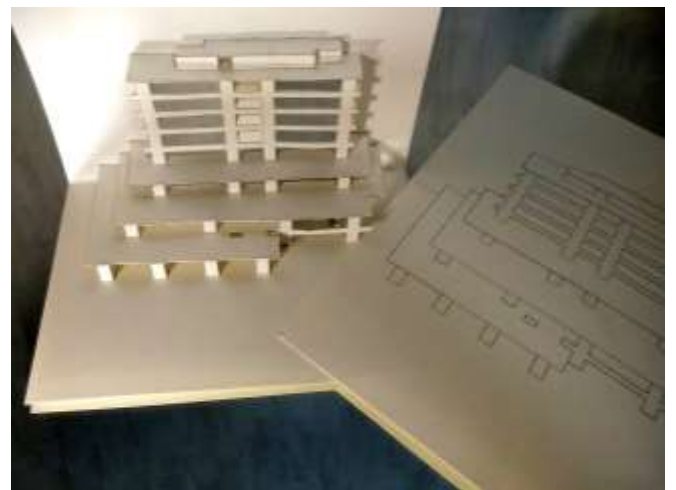
ーマで防災塾・だるまの理事、高松氏より報道等では取り上げられない被災地での現実的なお話を伺いました。割とショッキングな内容もあり、前段の防災活動の説明のような理想的な状況にはならない事が多い事が解りました。これら2つの講演を通して、一般的に認識されている災害時の活動等には様々な問題点があるように感じると同時に、やはりどのような状況であれ、最終的には一人一人のモラルが大切である事、そして状況によっては教科書通りではない臨機応変な行動が必要である事を改めて感じる機会となりました。

最後の部のワークショップでは、女性委員会委員長の茶谷さんによる折紙建築の体験を参加者みなさんで行いました。この日のために昨年工事が終わった平塚市新庁舎のカードデザインを作成いただき、久々に指先を駆使する作業に四苦八苦しながらも楽しい時間を過ごすことができました。一連のカリキュラム終了後は近くの居酒屋で懇親会を行いました。セミナーを主催された女性委員会・防災委員会の皆様本当にお疲れ様でした。またご協力いただきました講師の皆様、為になるお話の数々ありがとうございました。

防災委員会 遠藤 正治

講演1は「地域の防災活動—平塚市の防災への取り組み」と題し、元消防レスキュー隊員だった、市災害対策課の榎氏がプロジェクターを用いて、平塚市立体育館での総合防災訓練の様子を説明されました。訓練は自治会の協力を得て地域住民が参加し、平塚市職員の指導および榎氏の実況中継により、地震発生時の個人の行動防御から近隣公園など拠点毎の住民同士のお互いの安否確認 救助を行なう自助・共助（近所）の活動地域篇および、その後の避難所設営および運営篇までを訓練時の写真やイラストなどに基づき語られました。纏めの言葉として『訓練は災害のように、災害は訓練のように＝訓練に終わりなし＝』という消防らしい言葉で締めくくられました。

講演2は「災害時における女性の視点」と題し、



折紙建築ワークショップ「平塚新庁舎」

防災塾・だるまの高松理事による被災当時の被災地視察体験を語られました。7年前の東日本大震災の津波被災地、岩手、宮城、福島富岡、を巡回し福島原発近くでは防護服着用、2016年熊本地震の折には4月と6月に南阿蘇の避難所も訪れ、炊き出しもしたそうです。その経験から避難所でのプライバシー確保が何よりも大切であり、トイレ使用法、水廻サニタリー、防犯対策に配慮が必要なこと、仮設住宅や復興住宅でも、コミュニティの形成、近隣交流など多くの課題があることを語られました。高松氏は「お互いの思いやり、女性の知恵をもっと生かすこと」を心掛けたいものです、と結びました。

ワークショップ「平塚新庁舎をカード（折り紙建築）にしよう」女性委員会委員長茶谷氏の説明により作業時間約30分にて立体カードを作成しました。あわただしいところもありましたが、3部構成の充実したセミナーでした。

## 湘南支部

### 藤沢市役所新庁舎見学会

梅澤 典雄

平成29年12月16日(土)藤沢市の新庁舎の見学会が行われ、50名の会員が参加した。



新庁舎外観

新庁舎はP C a P C工法、地下1階、地上10階、免震構造を備え、21世紀にふさわしい市庁舎の機能と内容を盛り込んだものになっている。

藤沢駅から新設されたペDESTリアン

デッキを通ると庁舎のエントランスにいたる。ガラスとアルミルーバーで構成される軽快な外観だ。最上階議場の外壁に付いた市章が市役所であることを示している。

国道467号線のレベルとの高低差を利用し車と歩行者の分離を図っている。裏方周りを地下に入れることで地上の足元は「裏」の無い庁舎となって市民に開かれている。

新庁舎の設計監理を担当した梓設計、施工の鹿島門倉組共同企業体、藤沢市の担当者から説明を受け、館内を一巡した。



藤棚をイメージした議場

富士山が見える市民に開放された展望ロビー、藤棚をイメージした木調の議場、アトリウムを中心とした執務室、市民利用の会議室と屋上庭園すべて明るく機能的にまとめられている。1~4階は市民窓口エリアとなっていて、中央の待合ロビーにはアトリウムを通した自然光が入る。

とても質の高い設計になっている。末永く市民に愛される建築になることを願いたい。

明治大正庁舎が保存されることが多いのに対してほとんどの昭和の庁舎は安全性や機能性の問題で取り壊されていく。

まちづくりの点でいえば市庁舎こそ都市の記憶をとどめるものとして残すべきなのだ。昭和の市庁舎とは何だったのか再考しなくてはなるまい。

## ◆委員長から一言◆

(村島 正章)

各部会では色々特色を出して様々な研修を行っています。私自身、今回は参加できなかったことが非常に残念でした。30年度も興味ある研修会・見学会を用意して会員の皆様の参加を期待していますので、乞うご期待！

## ■福祉部会

(児玉 卓)

平成29年11月25日(土)、かながわ労働プラザで福祉部会第2回研修会「福祉・介護施設における防犯・緊急通報対策」～建築士が知っていれば、犯罪被害は防げるのか～を開催しました。今回はNPO法人神奈川県防犯セキュリティ協会から2人の講師をお迎えし、建築や防犯機器など様々な視点からお話いただきました。

まず犯罪の未然防止のためには犯罪の機会を与えないことが大切であり、施設や住民の心構えとして街路や窓からの見通しの確保や隣接する建物からの侵入防止策などが紹介された後、セキュリティ・システムについて、様々な機器・システムの特徴や効果、設置や運用に当たっての留意事項など、施主に提案するに際してのポイントについてお話しがありました。そして近年の福祉施設・病院での犯罪を通して見えてきた課題として、防犯設計・防犯機器の充実、防犯マニュアルの作成、防犯訓練の実施などを挙げられ、建築・機械・人の連携が大切とお話を伺いました。続いて新しい防犯システムとしてIoTの進展を見据えたクラウドサーバーとスマートフォンを活用するシステムの紹介があり、特に福祉・介護施設においては、夜間を含む緊急時の職員間の連携強化、施設の実情に応じた段階的導入、ソフトウェア更新による可変性、経費の削減効果などの特徴について認識することが出来ました。



実際のセキュリティ機器も研修会場に並べられ、これまでの武骨な製品と比べデザイン性に優れた屋内端末や小型のネットワークカメラやセンサーが紹介され、また終盤の質疑応答においては、システムの価格設定に始まり、AIスピーカーとの連携、停電時の対処方法、住宅への導入を想定した高齢者などへの駆けつけサービス、転居時の取扱いなどに話題が及びました。

研修全体を通して設計者としての防犯意識と最新のセキュリティ・システムについての知識を得ることができ、今後、福祉・介護事業者の施設整備に際し、建築士としてこれまで以上に犯罪に強い施設設計が求められる中、防犯設計に加え、最新のセキュリティ機器の知識や防犯マニュアルの作成などのソフト面への理解を深めることが、依頼主の信頼を得ていく上で大切であることを実感した研修会となりました。

## ■子どもの生活環境部会

(宇野 素子)

12月16日(土)ふじさわ宿交流館企画「藤沢宿レポーターになろう～町家と蔵を世界に発信」を行いました。この企画は昔のあそびを伝える会と藤沢市郷土歴史課が主催で、市内の小中学生が対象です。子どもの生活環境部会は講師として参加し、昨年に続き2回目でした。

今回のまち歩きは藤沢の歴史にも触れてワークショップを行いたい、それなら地元の学生にこそ藤沢宿を知ってほしいという思いから、今年は地元の藤嶺学園藤沢中学校に直接呼びかけました。その結果、中学2年生、3年生10人と引率の先生、そして一般公募から小学校5年生2人が参加してくれました。中学生が主なので、自分たちで自主的に考えられるような内容にしたいと思いました。そこで部会メンバーが参加した地図作りワークショップで得た知識を参考に考えました。藤沢宿のまち歩きをし、訪れる人にこの建物の『ここがオススメ!』『ここがおもしろい!』と子ども達の感想を交えて紹介してもらうアピールシートを作成にすることにしました。

当日は13:30からまち歩きをし、班ごとに分かれ、八つの建物を分担し、説明を聞きつつよく観察し14:30からアピールシートを作成しました。皆、積極的に取り組んでくれて時間が足りなかったほどでした。『もっと歴史を知りたい!』『中に入りたい!』『近くにこんな場所があったなんて知らなかった!』という声が聞けて嬉しかったです。アピールシートを多くの人に見てもらうため、初の試みとして期間限定サイトにアピールシートをアップすることにしました。子ども部会のHPにリンクを貼りますので、ぜひ子どもたちの作品を見に来てください。

まず説明：旧藤沢宿とは↓

アピールシート完成!



この石蔵の石は房州石だよ↓

みんなそろって記念撮影!

